

【専門科目領域/専門科目群/看護の統合と発展】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護総合実習Ⅰ（看護実践習熟）	NSP44_006	必修	2	4	通年
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
梶原 睦子 他	409	mutsuko.kajiwara	水曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	4年次までの講義・演習・実習で修得した理論と実践の統合により卒業後の課題を明確するとともに、臨床看護の実際を経験することにより、安全で質の高い看護を提供するための臨床判断能力と看護実践力を養う。具体的には、学生自身が明確にした学習課題について、実習を通して解決を目指すとともに、複数患者への優先順位を考慮した看護の実践や看護管理の実際の観察等、臨床の状況に即した看護の経験をする。4年前期までの講義・演習・実習で学んだ知識と技術を統合し、安全で質の高い看護を提供するための臨床判断能力と看護実践力を養う。				
学習上の助言	これまでの学修で修得した知識・技術・態度を基盤として、卒業後の臨床実践において看護職に求められる課題を考えながら行動してほしい。各自の積極性と主体性に期待する。				
教科書	適宜紹介する。				
参考書	適宜紹介する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	看護職としての病院・病棟管理を理解する。	NS(4)(5)			
②	看護チームにおけるリーダーシップ、メンバーシップを理解する。	NS(1)～(4)			
③	複数患者のニーズを把握し優先順位に基づき安全に配慮した看護を実践する。	NS(1)～(4)			
④	チームの一員として専門職を目指す責任ある行動をとる。	NS(1)～(5)			
⑤	実習を通して卒業後の課題を明確にする。	NS(5)			
授 業 計 画					
1. 実習時期と期間 4年生前期 2週間					
2. 実習を行う領域分野 基礎看護学領域、成人看護学領域、老年看護学領域					
3. 実習施設（予定） 都留市立病院、上野原市立病院 加納岩総合病院 甲州リハビリテーション病院 山梨赤十字病院 他					
4. 実習内容・方法 スケジュールや具体的な方法は、オリエンテーションで説明する。					
1) 看護管理の理解を深めるために、看護管理者の講義、師長の業務の見学および参加をする。					
2) 看護師の役割機能を学ぶために、チームリーダーとメンバーナースのそれぞれの役割や協働についての見学を行う。					
3) 学生間でチームを構成しながら複数患者を受け持ち、情報収集・アセスメントをする。					
4) 根拠に基づいた看護計画を立案する。					
5) 優先順位に基づいた看護実践をし、評価・修正をする。					
6) チームの中で、適切な報告・相談をする。					
7) 臨床実習と学内実習を組み合わせる効果的な実習していく。					
学習課題・学習時間（時間）					
・事前学習 実習での実践に向けて、必要な知識の事前学習を丁寧に行い、実践に臨むようにする。					
・実習記録・レポート課題 提示された実習記録やレポート課題について、指示された方法で自らの考えをまとめる。					
・疑問点はなるべくその場で質問し解決するとともに、自主学習においても調べる習慣を持つ。					
・看護サマリーを作成し継続看護について考える。					
必要時間： 10時間					

【専門科目領域/専門科目群/看護の統合と発展】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	50	20	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	0	20	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	10	10
	発表・表現伝達する力	0	10	10	0	0	20
	コミュニケーション力	0	0	0	0	10	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	10	0	10	20
問題を発見・解決する力		0	10	0	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
レポート	①	✓	実習を通しての看護過程の展開に関する一連の記録を作成する。実習中の学びや気づきを実習記録やレポートにまとめ、指示された方法で提出する。看護実践を通して自己を振り返り今後の課題を考察する。				随時内容を確認し、コメントする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①	✓	受け持った事例についてのサマリー作成し、経過や実施した看護、継続すべき看護や課題などを発表し合い共有する。				発表内容に助言を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
ポートフォリオ	①	✓	実習記録をファイルにて整理し、ファイル提出時は指示された内容に従い実習記録が整えられたものを提出すること。				内容や整理状況を確認し、必要時、個別にコメントする。
	②						
	③						
	④						
	⑤	✓					
その他	①	✓	実習における姿勢や態度については、日々の課題学習や記録への取り組みなどを含めて総合的に評価する。実習前から自己の健康管理を行い実習に臨むこと。				十分な学びの機会が得られるよう、実習への姿勢や体調管理について適宜指導を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	小石川好美、渡邊泰子、岩淵正博、佐野宏一朗、東福寺愛実、山崎さやか、吉岡睦世						
教員の実務経験	担当教員は、各領域の特色に応じた看護師としての臨床経験・教育経験を有する。						
実践的授業の内容	教員は実習指導者と連携して、看護師としての豊富な臨床経験をもとに、卒業後に経験すると思われる臨床実践の状況に即した経験ができる実習場を設定し、学生の課題解決や看護観の確立をともに考え学習を支援する。						
そ の 他	・学外での実習の際、感染予防行動を徹底するとともに、日ごろから自身の体調管理を心掛けること。 ・実習施設では、実習指導者の指示に従って主体的に行動すること。						